

## 農林水産省 平成30年度（第19回）「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」受賞者が発表され、家畜改良技術研究所のグループが受賞

農林水産省は平成30年度（第19回）「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」の各賞受賞者を10月22日にプレス発表しました。受賞者として、当団の家畜改良技術研究所の職員グループが「農林水産技術会議会長賞 民間企業部門」に選ばれました。

本表彰事業は、農林水産業その他関連産業に関する研究開発のうち民間が主体となっているものについて、その一層の発展及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するため、優れた功績をあげた者を表彰するもので、今回は19回目となります。

### 当団受賞概要

#### 【農林水産技術会議会長賞 民間企業部門】

○肉用牛産肉形質のゲノミック評価技術及び評価実施体制の確立

黒木 一仁（一般社団法人家畜改良事業団） 荻野 敦（同） 野崎 隆義（同）

渡邊 敏夫（同） 小野木 章雄（元 一般社団法人家畜改良事業団）

#### 〈業績概要〉

効率的に良質な肉用牛を生産するためには、その母となる雌牛の産肉能力を早期に把握することが必要となる。この課題解決のために、従来用いられてきた遺伝的能力評価法（BLUP法）に一塩基多型（SNP）情報を付加した ssGBLUP 法を用い、6年間に渡り有効性を検証し、産肉能力のゲノミック評価法を確立した。

有効性の信頼度の検証は直近の産肉成績記録4.8万頭、SNPデータ1.5万頭、血統記録41万頭と膨大な記録データを材料として算出し、その結果、枝肉6形質では従来のBLUP法よりもゲノム解析を付加した ssGBLUP 法の信頼度が枝肉6形質すべてにおいて高いことが証明された。

これらについて、大学等の有識者からなる専門家に本技術の検証を依頼し、十分に実用レベルにあるとの評価を受けた。

#### 〈普及状況〉

肉用牛の産肉形質のゲノミック評価は、すでに多くの県の畜産試験場や県の畜産推進事業の他、一般の繁殖牛農家にも利用されています。平成29年度では4,874頭の評価を実施し、平成30年度9月末までに昨年度実績を超える125%の評価を実施しています。

概要は、農林水産技術会議ホームページご参照ください。

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181022\\_15.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181022_15.html)

なお、本研究は日本中央競馬会特別振興資金助成事業での取り組みによる成果です。